

## 道東の岩礁海岸に広く定着したキタアメリカフジツボ： 在来種との相互作用の解明

エーケーエム ラジテュル アラム<sup>1</sup>, 萩野友聡<sup>1</sup>, 阪口勝行<sup>1</sup>, 野田隆史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>北海道大学大学院環境科学院

<sup>2</sup>北海道大学大学院地球環境科学研究院

キタアメリカフジツボは北米西岸の原産とする外来種であり、2000年に北日本の岩礁潮間帯で初めて発見された。道東の岩礁海岸にはキタアメリカフジツボとは付着場所をめぐって競争関係にあるフジツボ類や海藻類、それにフジツボ類の天敵であるチヂミボラ類（巻貝）が生息している。そこで本研究では、キタアメリカフジツボのチヂミボラ類と在来のフジツボ類、および海藻がキタアメリカフジツボの増加におよぼす影響を検討した。

これらの在来生物がキタアメリカフジツボの増加におよぼす影響は、野外操作実験で検証することにした。そのために、海藻、在来フジツボ、およびチヂミボラの有無について総当たりの8通りの組み合わせの実験区（①無操作区、②在来フジツボだけ除去区、③海藻だけ除去区、④チヂミボラだけ除去区、⑤在来フジツボと海藻の除去区、⑥在来フジツボとチヂミボラの除去区、⑦海藻とチヂミボラの除去区、⑧在来フジツボと海藻とチヂミボラの除去区）を作成した。開始から16カ月後に各実験区内の海藻と在来フジツボの被度（岩表面の被覆度）、チヂミボラの個体数、およびキタアメリカフジツボの個体数を比較した。

その結果、キタアメリカフジツボの増加は、在来フジツボとの競争と天敵であるチヂミボラによる捕食によってある程度食い止められていることが明らかになった。港湾の岸壁にしばしばキタアメリカフジツボが多いのは、こうした在来種が少ないからなのかもしれない。

また、在来種同士の奇妙な種間関係—在来フジツボはチヂミボラの捕食の効果を弱める—の可能性が浮かび上がってきた。ひとつの仮説でしかないが、餌とならない在来フジツボがキタアメリカフジツボの周囲に多くいるとチヂミボラの索餌（あるいは摂食）効率食行動が妨げられるのかもしれない。この謎の解明とともにキタアメリカフジツボが在来種に及ぼす影響を明らかにすることが今後の重要な課題である。